

山形県の湧水【村山地域】

平成27年11月 山形県調べ

湧水の名称		所在地	概要等	湧水保全活動等
名称	ふりがな			
山形市				
阿古耶の水	あこやのみず	千歳山萬松寺	○白鳳時代、藤原鎌足公の血を引く阿古耶姫が開墓したといわれる千歳山萬松寺の寺院裏手の石段を登ったところにある。 ○竹林に囲まれ、石の間から澄んだ水が湧き出している。	保全活動等は無し
阿弥陀清水	あみだすず	土坂	○瀧山参拝の際に喉を潤してきた湧水であり、土坂地区の用水として大切な役割を果たしてきた。 ○湧水の傍らに南無阿弥陀仏の碑が建てられているため、こう呼ばれている。	保全活動等は無し
大坊清水	だいぼうすず	蔵王上野	○蔵王ラインから農免道路に入った道路沿いにある。 ○泉の上手に水神様の石碑が建てられ、湧水は地域の人たちにより管理されている。 ○昔は、「水ごはん」を作ったり、青菜の洗い場や井戸端会議の場として使われた。 ○現在はニジマスの養殖にも使用されている。	地域で管理
長命水	ちょうめいすい	奥山寺	○山寺から二口林道に入った先に二カ所湧いている。林道に入って約3kmほどの右手と、さらに400mほど進んだ先の分かれ道を左手に入った林の場所に湧いている。 ○音を立てて沢に流れ下る様子は清涼感に満ちている。	保全活動等は無し
羽龍沼出壺	はりゅうぬまでつぼ	神尾	○野草園南側から羽龍沼に向かう登山道の途中にある。 ○大きな杉の木の根元から砂を巻き上げながら水が湧いている。 ○羽龍沼と出壺の水は、かつての飯田村が管理した溜井で、湖畔に建つ請雨塔と普潤碑は当時の水不足の恐怖を物語っている。	保全活動等は無し
延命水	えんめいすい	風間	○隣に、延命地藏尊があったことから、「延命水神」と名付けられた。 ○現在では、延命水道組合を組織し運営している。 ○最近では延命水道小屋を新改築し、大きな水車を取り付けて地域の名物になっている。	延命水道組合
桂清水	かつらしみず	神尾	○野草園の北側の林の中に存在する。 ○樹齢千年以上と思われる大きな桂の木の根元から湧き出している。	保全活動等は無し
上山市				
樹水の泉	じゅひょうのいずみ	横倉山	○蔵王温泉から横倉トンネルに向かい、トンネル入り口手前の左側にある。(湧水の標識有り) ○水場のシンボルになっているミズナラの木の根元から竹の筒が伸び、先端から豊富な水が流れている。 ○側の石の付近からも水が湧きだし、水は透き通っており、水場もきれいである。	保全活動等は無し
坊平のお清水	ぼうだいらのおしず	蔵王高原坊平	○蔵王エコーラインを上り、ライザスキー場のゲレンデのほぼ中央に位置し、蔵王信仰の登山口として宿坊を有する霊場であった「お清水の森」にある。 ○参道を上った広場に水場がある。○水量は豊富で透き通っている。	上山市上下水道課と蔵王坊平小規模水道施設利用組合で水質検査をしており、上山市山岳会で周辺の草刈等を行っている。
御田の神	おだのかみ	蔵王御田の神	○山林の中に水源があり、蔵王坊平地区の水道と山麓地区の農業用水となっている。	湧水箇所はコンクリートで保護されており、水質も分析している。

コロコロ水	ころころみず	下生居	○コロコロ沢の上流にある水場。 ○以前は管理している人がいたが、現在は管理されていない。 ○水は白く濁っている。	保全活動等は無し
照真寺分岐手前の水	しょうしんじぶんきてまえのみず	河崎反田	○照真寺へ向かう道路の分岐点手前の苔から滴り落ちている。	保全活動等は無し
天童				
東漸寺の水	とうぜんじのみず	上貫津	○風穴で有名な「じゃがらもがら」に向かう林道途中にある。(湧水の標識有り。) ○雨呼山や、じゃがらもがら付近の水が伏流し、湧き出ている。 ○昔から地域の水として親しまれてきた。○水は透き通っている。	地区の人によって、周辺の清掃、草刈りなど手入れがなされている。
間坂の水	まざかのみず	山元	○最上三十三観音の若松寺の手前、道路が大きく左カーブする場所にある。 ○水汲み場に降りる階段が設置され、水槽も設けられている。 ○パイプから透き通った冷たい水が勢いよく流れている。○水汲みに来る人もいる。	津山財産区による周辺の清掃、草刈りが行われている。
龍命水	りゅうめいすい	田麦野	○天童高原の散歩道「天童高原ふるさと自然のみち」の途上にある。 ○水は非常に冷たく、四季を通じて9℃前後。 ○田麦野地区の水田を潤してきたことから、龍神の恵みの湧水として龍命水と命名されている。	保全活動等は無し
山辺町				
雷	いかづち	作谷沢地内築沢	○雷山のふもとに湧く泉。 ○作谷沢地区の水道水に使用している。	年1回水質検査の実施
稲荷様	いなりさま	作谷沢地内北作	○夏でも水温は低い。 ○清流の象徴といわれるバイカモがみられる。	保全活動等は無し
御清水	おすず	作谷沢地内畑谷	○「畑谷農村婦人の家」近くの裏道の奥に湧いている。 ○水量が豊富で、現在も近隣の畑の散水などに使われている。	地域の人たちが周囲の草刈りや清掃を行っている。
亀ノ子	かめのこ	東黒森山南麓	○県道17号沿いにある。 ○出水口に亀の置物が設置されて以来、亀ノ子水の名で親しまれている。	地域の人たちが周囲の草刈りや清掃を行っている。
五番御神酒	ごばんみき	作谷沢地内嶽原	○木々に囲まれた神秘的な湧水池である。 ○きめ細かく白い砂を吹き上げながら水が湧く様子が観察できる。 ○白鷹山虚空蔵菩薩が御空から出られたとき、御尊体を清めたという伝説がある。	地域の人たちが周囲の草刈りや清掃を行っている。
弁財天(小針生)	べんざいてん(こばりょう)	作谷沢地内北作小針生	○山道の奥に木々に囲まれた自然のままの湧水が現れる。 ○側には、弁財天と記された石碑が建っている。	保全活動等は無し

弁財天 (畑谷)	べんざいてん(はたや)	作谷沢地内畑 谷西ノ原	○慈覚大師が旅の途中休んだといわれる由緒ある水場である。 ○水場に標識が設置されている。	地域の人たちが周囲の草刈りや清掃を行っている。
龍神水	りゅうじんすい	作谷沢地内日 向	○子安明神入口にある龍神の像の口の中から湧水が出ている。 ○地域への恵みに感謝し、人と自然の共生を世に伝えるため、傍に碑が建っている。	地元団体「湧水地グランドワーク作谷沢」が管理、清掃にあたっている。
中山町				
朴清水	ほうのきすず	金沢地内	○弘法大師が手にしていた杖を突きさしたところ、綺麗な清水が湧き出たため、弘法清水と呼ばれている。	地区で年1回清掃を行っている。
寒河江市				
長命水	ちょうめいすい	白岩2,383	○霊山葉山を源にする伏流水で、キャンプ場で利用していた湧水を山麓にある「葉山市民荘」の入口に引いたもの。 ○非常に冷たく水量も豊富である。○登山客だけでなく、水汲みに訪れる人も多い。	寒河江市と葉山市民荘とで日常的な管理にあたっている。
河北町				
岩清水	いわしみず	弥勒寺	○林道から階段を15mほど下ったところにある湧水。 ○現在も、弥勒寺地区37戸の簡易水道水源として地区民に愛用されている。 ○昔は井戸水に恵まれなかった谷地まで水を引き、上水道の水源として利用されていた。	保全活動等は無し
西川町				
月山の湧水	がっさんのゆうすい	志津	○「月山山麗湧水群」の中でも手軽に行くことのできる代表的な湧水である。 ○真夏でも水温が7℃程度である。	落ち葉除去などの管理を行っている。
ぶなの泉	ぶなのいずみ	志津	○湧水池が整備され、端からは冷たく澄んだ水がこんこんと流れ出ている。 ○周囲には遊歩道が巡らされて散策できるようになっており、いこいの場となっている。	年2回、遊水池内及びその周辺の清掃及び落ち葉除去などを委託し、環境整備(管理)を行っている。
朝日町				
五本樋	ごほんどよ	八ツ沼	○八ツ沼地区に湧いており、水源は道円山など周囲の山々の伏流水である。 ○5本の樋から小さい滝となって流れ落ちており、その樋は苔が蒸し趣がある。 ○かつては八ツ沼地区の貴重な生活用水として使用されていた。	八ツ沼区事業として毎年春と秋清掃、7月周辺の草刈を実施。 今年度は、樋の交換を行った。
大江町				
市の沢地蔵尊 井戸	いちのさわじぞうそん いど	市の沢	○かつて三山参りの旅人が通った旧道脇にある。 旧道の先には坪景(つぼけ)峠があり、旅人はこの湧き水を飲み休息した。 ○今は地藏尊が残っている。	近隣住民による年数回の清掃活動。

御不動尊水	ごふどうそんすい	三郷	○熊野神社のある小高い丘の麓に大きな池があり、池の端に不動尊が祀られている。その不動尊の足下にこの水は湧いている。 ○水道が敷かれる前は、地元の人々の水道として使用されていたが、現在は雑用水として供給している。	地区民による年数回の清掃活動。年1回熊野神社の祭典と合わせて御不動尊の祭典も実施。
峠の清水	とうげのしみず	大頭森山	○西川町との境界近く、大頭森山の道路わきで、パイプに導かれて水が湧き出ている。 ○周りは石組みがしてあり、一休みしたくなるような雰囲気がある。 ○大頭森山自然公園を訪れる客に対する観光資源としても活用されている。	保全活動等は無し
村山市				
いたや清水	いたやすず	樽石	○古くから知られた水で、遠方から水をくみに来る方も多い。 ○1km程離れた水源から引いて水汲み場として整備されている。	社会教育団体の樽石大学で管理している。
清水衛殿	しずえでん	樽石	○グリーン山形百十景に選定されている見事なブナ林の中を歩くハイキングコース(自然観察路ブナ林コース)にある。 ○斜面中腹から湧きだす水で、冷たく水量が非常に多く、苔や草の生えた階段状の石の間を滝のように流れ落ちている。○若返りの水、長生きの水などとも言われる。	保全活動等は無し
鏡清水	かがみすず	楯岡鶴ヶ町	○楯岡城400年以上にわたり、山頂の城の命水として使われてきた。 ○姫や女房たちが水鏡を利用して化粧などをしていたことが地名の由来とされている。	現在は現地にある説明板の内容を想像することも難しくなっている。
東根市				
小見川	おみがわ	羽入	○乱川の扇状地に湧く水は「どんこ水」と呼ばれ、多くの家庭で自噴井戸をつくり、生活用水として使っている。 ○水源の沼が湧水である。きれいな水に生息するとされるイバラトミヨが生息していることでも知られる。	川の清掃活動は、「イバラトミヨを守る会」の会員により草刈り等を行っている。 イバラトミヨの生息調査などは、「イバラトミヨ生息地保存連絡協議会」が行っている。
ぶな清水	ぶなすず	宮崎	○長い間長瀬地区の人々の飲み水や田んぼなどの農業用水として用いられてきた。 ○遠く沼沢沼とつながっており、沼のそばのブナの葉が湧き出たことからこの名がついたといわれる。 ○現在は雑用水などに使用されている。	保全活動等は無し
犬千代瀧	いぬちよたき	東根甲	○狭い坂道を登っていく途中にある湧水。 ○犬千代君が飲まれたことが名前の由来といわれる。 ○殿様の「御前水」だったとの言い伝えがある。	保全活動等は無し
遅沢の男水	おそざわのおとこみず	遅沢	○黒伏山への登山道の途中にある湧水。 ○山岳信仰の盛んなころから山に登る人たちの喉を潤してきた。	保全活動等は無し
小屋清水	こやしみず	白水川ダム前	○入集落のはずれ、旧道脇にある湧水。 ○昔、山に入る時は、ここで小屋掛けをして一晩過ごし、朝に水垢離(冷水で穢れを払い体を清める)を行ってから山に登ったことが名前の由来といわれる。	保全活動等は無し

長命不動尊の水	ちょうめいふどうそのみず	甕岳山麓	○甕岳への登山道の脇にある湧水で、古くから登山者の喉を潤してきた。 ○一口飲めば、命が延びるといわれ名前の由来といわれる。	保全活動等は無し
柳沢小屋わきの水	やなぎさわごやわきのみず	黒伏高原	○柳沢山小屋そばの湧水を引いたもの。水量は大変豊富でとても冷たい。 ○登山などで訪れる人ののどを潤している。 ○山岳信仰が盛んだった頃はここで水垢離(冷水で穢れを払い体を清める)を行ってから、山に向かったと伝えられる。	保全活動等は無し
尾花沢市				
御所の水	ごしょのみず	鶴子字市野々	○新鶴子ダムに向かう途中、鶴子小中学校を過ぎたところから右に1km程行ったところある。 ○水量は豊富で冷たく、水を汲みに来る人が多い。 ○周辺にはベンチなどが整備され、手軽に行くことができる。	地元企業や観光協会が、周辺整備、案内板設置など管理にあたっている。
長命水	ちょうめいすい	下柳渡戸	○銀山温泉に向かう途中、道路わきに洞窟が口を開けている。(湧水の看板有り) ○洞窟内は突き当りが広い部屋になっており、足元に冷たく澄んだ水がたたえられた「池」がある。 ○真夏でもひんやり涼しい。	保全活動等は無し
養老の泉	ようろうのいずみ	中沢(翁山)	○翁山のハリマ小屋から南側へ120m程度進んだブナの原生林の中に湧き出している。 ○非常に冷たい。 ○クルミ平沼に注ぎ込み、赤井川の源流となる。	「翁山を守る会」、「尾花沢山の会」など地元の団体によって保全が図られている。
檜の木立の湧き水 (長寿の名水)	ならきたちのわきみず (ちょうじゅのめいすい)	母袋	○集落より国道347号線宮城方面、鍋越峠、道路左側の駐車帯の下にある。 ○奥羽山脈裾野より湧き出している。 ○水は非常に冷たい。	安心・安全に利用できるよう、集落で維持管理に努めている。
ブナ源水	ぶなげんすい	寺町	○銀山温泉手前の寺町集落から南へ1km入ったところに「ブナ共生の森」がある。樹齢50年の自然ブナ林が80haに亘り生殖し、遊歩道も完備され「美しい日本のあるきたくなるみち五百選」に選ばれている。 ○ブナ林に年中途に、ひっそりと「ブナ源水」と名付けた湧水があり、冷たくて美味しい水である。	寺町地区で保安全管理をいしている。
開宝清水	かいぼうすず	五十沢	○国道13号線から五十沢地区に向かう県道のすぐ脇に、湧水を引いたパイプがある。 ○水量はあまり多くないが、年間を通して冷水が流れ出ている。 ○集落に近いことから湧水を利用する人も多く、地区民のよりどころとなっている。	五十沢地区において、水質検査や看板の設置など、周辺整備と環境保全にあたっている。 水質検査受検済み(年度不明)
大石田町				
イカゴ清水	いかごすず	駒籠字上ノ原	○縄文遺跡の近くの杉林の中にある。 ○道路わきに看板が建っている。 ○大石田町登録文化財(名勝)となっている。	地区住民による周辺の美化活動を不定期に行っている。
導者清水	どやすず	横山字新林 (来迎寺)	○最上川沿いの水田脇にある。 ○昔出羽三山の参拝者(導者)が飲んだと言われている。 ○大石田町登録文化財(名勝)となっている。	地区住民による周辺の美化活動を不定期に行っている。
こわ清水	こわすず	次年年子字小竹	○次年年子地区簡易水道の水源となっている。 ○昔、山越えをする人が疲れを癒すため飲用し、疲れるを方言で「こわい」と言うことから「こわすず」と呼ばれたという説がある。	次年年子簡易水道の水源ため大石田町で管理している。